

富士山登山鉄道構想検討会 第2回理事会 議事要旨

【開催要領】

1. 日時

令和元年9月12日（木）9：00～10：00

2. 場所

アルカディア市ヶ谷（私学会館）6階「霧島の間」

3. 出席者（敬称略）

山東 昭子	参議院議長
太田 孝昭	認定NPO 法人富士山世界遺産国民会議 監事
喜勢 陽一	東日本旅客鉄道株式会社 常務取締役・総合企画本部長
島田 晴雄	首都大学東京 理事長
清水 喜彦	SMBC 日興証券株式会社 代表取締役社長
高橋 誠一	全国賃貸管理ビジネス協会 会長
平林 良仁	認定NPO 法人富士山世界遺産国民会議 評議員
藤井 敏嗣	山梨県富士山科学研究所 所長

【次 第】

1. 開 会

2. 挨拶 長崎幸太郎 山梨県知事

3. 事例研究

(1) 国内外の先進事例について

(2) その他

4. 閉 会

【主な発言】

先進事例について

- ・自然条件の厳しい富士山への鉄道の整備には、基礎インフラの計画をしっかりと立てる必要がある。その参考とするため、国内外の事例において、主体、関係団体、資金等を含め、どのようなプロセスで実現してきたか、細かい資料を準備して欲しい。
- ・国内外の事例について、収支計画（実際のコストや毎年の収入、減価償却等）を調べて欲しい。一度造れば永遠に使えるわけではなく、常に整備が必要なので、それらも含めて考える必要がある。
- ・スイスは実際に行くと本当に綺麗なもので、料金は高くても、もう1回行きたいと思う。
- ・今日紹介されたプロジェクトは、事業から上がった資金を環境整備に使うなど、上手く事業が成り立っている。運賃は高いが、採算をとるための一つの指標ではないか。

富士山での課題について

- ・世界遺産富士山の自然環境をしっかりと守り、これを日本の観光資源として収益性があるものにして、その資金でさらに整備していくことが必要。
- ・富士山はスイスの山と違い火山であり、崩れやすい。鉄道整備は一つの考え方だが、環境保全や安全性確保ができなければ、他の方法も考える必要がある。
- ・安全確保のための技術的な対応策と、それを実施することで環境維持やユネスコの理解が得られるかがハードル。
- ・富士山に鉄道を敷く場合、火山、地盤などどのような特有の課題があるか、論点と課題、基礎データが必要。
- ・富士山では露岩地帯での落石や雪崩に対し、十分な対策が必要。一方、日本は地震、火山噴火などどこも同じ問題を抱えており、他の山と比べて特殊な事情があるとは考えなくても良い。

- ・勾配が何度以上になるとラックレール式にする必要があるか。
(一般的な鉄道が採用する粘着式は、国内では 80‰ (1,000m進む間に 80 m上る) が最高。その辺りが目安になるのではないか。)

まちづくり (周辺整備) について

- ・また行きたいと思えるような魅力づくりを富士山や周辺でやらないと、持続可能性がなくなって廃れてしまう。二度三度来たい富士山にするにはどうすべきかという視点が大切。
- ・山梨県は人口が減って厳しくなる。富士五湖周辺に巨大リゾートや介護施設、外国人労働者も含めた研修センターなどを造れると良い。**富士山登山鉄道を活かしたまちづくり**をして欲しい。
- ・日本はホスピスが無さ過ぎる。富士山を見て楽しく人生の終末を過ごすということも考えられる。

(以 上)